

# 清流

## 真剣に生きなきゃ、申し訳ない

きのう じゆぎょうさんかんとうたいへん せ わ た すう ほ ご し や か た が た さ ん か ほ ん と う  
昨日の授業参観等大変お世話になりました。多数の保護者の方々のご参加をいただき、本当にあ  
りがとうございました。

その授業参観で、6年生は、「ひとつのいのち」という資料をもとに、命についての授業が行わ  
れました。その資料は、15年前に不慮の交通事故で亡くなった5年生の教え子のことを伝えながら、  
「命の学習」をされているある先生が記された文章でした。その中で紹介されていた同級生が書  
いた詩が、下のような心を打つ内容でした。

てっちゃんが さいご た じゅうすとメロンパン  
てっちゃんが たおれていた つめ どうろ  
てっちゃんが よくでてる ぼくの夢  
さそわなければよかった・・・  
てっちゃんにかりた つり針  
とうとうかえされなくなりました

ぜんぶ さんかん ぜんぶ さんかん す ば じゆぎょう てんかい さんか ちいき かた かん  
全部は参観できませんでしたが、素晴らしい授業が展開されたようで、参加された地域の方の感  
想からも、子どもたちは「生きる」ことや「命」について深く考えることができたようでした。

わたし じゆぎょう さんかん ご ちいき かた かんそう よ せんじつ こうえん の だ せんせい  
私は、この授業の参観後、地域の方の感想も読みながら、先日、講演をしていただいた野田先生  
が、当時、自分の学校の生徒へ向けて書かれたメッセージを思い出していました。題名は、本号の題  
名である「真剣に生きなきゃ、申し訳ない」です。講演の中でも少し話されましたが、野田先生は、教  
頭時代にご自分のお連れ合いを病気で亡くされています。以下が、そのメッセージです。

あなたが空しく生きた今日は 昨日死んでいった者が  
あれほど 生きたいと願った 明日

かんこく 韓国ドラマ「カシコギ」より

「あー、そうか。妻はもういないのかー。」  
妻が亡くなった頃、目が覚めたとき、現実にもどると  
この言葉がいつも脳裏をよぎっていました。  
私たちに言い残したことが多々あったことでしょう。  
死ぬ直前まで、娘たち3人の将来を一番案じていました。  
「明日の朝も迎えられたらいいなあ」と  
毎晩のように願っていたに違いありません。  
42歳の1月20日が最後の朝となってしまいました。